

ハヤブサ

Falco peregrinus japonensis
Gmelin

タカ目
FALCONIFORMES

ハヤブサ科
Falconidae

カテゴリー

大分県
環境庁

選定理由 繁殖個体数は極めて少ない。飼育や剥製にするために捕獲される。また、化学的汚染による悪影響も懸念されている。

県内分布 県内全域の海岸部に生息する留鳥。冬季は個体数増加。

分布域 北海道、本州、四国、九州の海岸部に留鳥。琉球諸島では冬鳥。シベリア、中国東北部で繁殖。中国南部で越冬。

生息環境 岩山や海岸の岩棚に営巣する。おもに空中で中型鳥類を捕食する。非繁殖期には、干潟や河川、都市部など開けた場所でも見られる。

現状 県内の繁殖個体数は10羽未満、越冬個体数は数十羽程度である。

備考 大分で観察される亜種ハヤブサ(*F.p.japonensis*)は、環境庁カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類、国内希少野生動植物種、冬鳥としてごく希に観察される亜種オハヤブサ(*F.p.pealei*)は、環境庁カテゴリー情報不足、北硫黄島のみで繁殖する亜種シマハヤブサ(*F.p.furuitii*)は、環境庁カテゴリー絶滅危惧ⅠB類、国内希少野生動植物種。種ハヤブサは、ワシントン条約附属書Ⅰ。

ウズラ

Coturnix japonica
Temminck & Schlegel

キジ目
GALLIFORMES
キジ科
Phasianidae

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 情報不足

選定理由 全国的に個体数が激減している。県内でも生息数が減少していて、見る機会が少なくなっている。

県内分布 平地、高地の草原に飛来する冬鳥。

分布域 北海道、本州北部で夏鳥。本州中西部、四国、九州、琉球諸島で冬鳥。九州でも繁殖例がある。ウスリー、中国東北部、シベリアで繁殖。朝鮮半島、中国南部で越冬。

生息環境 平地から山地の草原や農耕地に生息し、主に地上で生活する。草を歩き回って、草の種子や芽、木の実、昆虫類、クモ類などを食べる。開けた場所に出ることはほとんどない。

現状 県内の生息数は少ない。繁殖期の観察記録もあるが地上生活し、ほとんど鳴かないので観察する機会が少ない。

ヤマドリ

Phasianus soemmerringii
soemmerringii Temminck

キジ目
GALLIFORMES
キジ科
Phasianidae

カテゴリー

大分県 準
環境庁 掲載なし

選定理由 生息数に比べて、狩猟圧が大きい。針葉樹林に転換され生息環境が悪化している。

県内分布 全域の森林地帯に生息する留鳥。

分布域 種ヤマドリは本州、四国、九州に留鳥。亜種アカヤマドリ(*P.s.soemmerringii*)は九州中北部。

生息環境 平地から山地のよく茂った林と林縁部。おもに植物食だが、昆虫なども食べる。

現状 狩猟圧により、生息数が少なくなっている。

備考 種ヤマドリは日本固有種で、国際自然保護連合準絶滅危惧種。5亜種あり、大分県内では亜種アカヤマドリだけが生息する。九州南部(熊本南部、宮崎南部、鹿児島)に生息する亜種コシジロヤマドリ(*P.s.ijimae*)は環境庁カテゴリー準絶滅危惧種に指定されている。